

特集 愛飲者インタビュー

ストレスから喘息、花粉症 SODとルイボスが 救世主

茨城県にお住まいの中島美恵子さん(75歳)

日本SOD研究会報

発行元 日本SOD研究会 宮城
住所 〒158-0094
東京都世田谷区
玉川1-15-2 B棟 2802
TEL. 03-5787-3498
協カ: 株式会社丹羽メディカル研究所
<http://www.niwa-medical.com>

親子3代に渡って茨城で歯科医院を営む中島家。今回は3代目の奥様、美恵子さんにお話を伺いました。ご主人は歯科医師、奥様の美恵子さんは歯科衛生士の資格を持ち、ご夫婦ともに現役です。

美恵子さんご夫妻のご長男も歯科医師で、現在は茨城県つくば市で開業されているとか。実に親子4代に渡って歯科医師という系譜になります。「私は大阪の出身で、結婚を機に茨城に来てかれこれ半世紀でしょうか。大阪時代はすごく健康な子供だったんですよ。それがなぜか茨城に嫁いだから、花粉症や喘息、アレルギーなどの症状が出始めたんです」

茨城という土地は都会と違って空気もきれいで農作物も良く育つところだというイメージがあり、美恵子さんが大阪ではなんともなかったのに嫁いだからいろいろな疾患が出たと聞き、不思議でした。

「嫁いだとき、明治生まれの祖父母、大正生まれの父母と同居だったんです。当時は大家族がひとつ屋根の下で生活することが当たり前で時代でしたから、これが普通だと思っていました。でも気苦労はあったのでしょね。息子が生まれてからは家事と育児、祖父母の世話など忙しく、4、5時間寝られればよし、という日々でした。おまけに子供が幼稚園に上がる頃に喘息の症状が現れて、その病院

通いもあり、ほとんど寝る時間がない日々が続いたとき、私にも喘息、花粉症などの症状が現れたんです」



ストレスと睡眠不足からくるものでした。丹羽先生も生前よく言っていました。ストレス、寝不足はがんや難病になるいちばんの要因だと。

「そんなときに友人がSODとルイボスエキス濃縮粉末（以下、ルイボス）のことを教えてくれたんです。どちらも花粉症やアレルギーなどにいいと聞いて、試しにいただいたら、私にすごく合うような気がしたんです。飲み始めてすぐに実感したのが、身体が軽くなって、元気が出たことでした。そのうちにひどい花粉症が少しずつ軽くなり、気づいたら喘息もほとんどなくなっただけです。これは本物だと実感しました」

ご主人の乾癬も 診療所で丹羽療法

そんな美恵子さんですが、喉元過ぎればなんとやら、花粉症や喘息が治まってからは、SODやルイボスもお休みしていたそうです。

「確か更年期を迎えた頃でした。SODの会社からお電話をいただいたんです。そういえば以前はSODとルイボスにすごく救われたことを思いだし、最近疲れが溜まっていたので、またいただくようになったんです。以来かれこれ20年くらい欠かさずいただいていますね。丹羽先生のご本も読み、講演会にも何度か行きました。SODのことなら何でも聞いてください(笑)

と言えるくらい詳しくなりましたよ」

さすがドクターのアシストをしていらっしやるだけあります。ご自身も資格をお持ちで、医療に関することなどは勉強されているからでしょう。

「主人は飲んでいなかったのですが、3、4年前に乾癬に なったんです。始めは頭皮から白い粉が吹き出して、フケかなと思っていたら、赤い吹き出物ができはじめ、それが足にも出てきて、病院に行ったらところ乾癬だと診断されたんです。でもたいした治療はなく、ステロイドの塗り薬をいただいただけでした。ステロイドは常用すると怖いので、丹羽先生の診療所で診察

美恵子さんの発症は環境汚染が原因かどうかではなく、

するように勧めたんです」

「ご主人は子供の頃から肌が白く、日焼けをするとすぐに赤くただれるくらい弱かったそうです。ご主人のお父様も同様に肌が白く弱かったようで、代々、喘息やアレルギーの家系だとか。」

「丹羽先生の講演会には主人も一緒でしたから、丹羽療法のこと、アレルギーやアトピーのこともステロイドでは対処療法にしかならないうえに、常用すると代謝障害で糖尿病などを発症すること、骨や血管がもろくなることも知っていました。だから新横浜の診療所に通うことに抵抗はなかったというか、むしろ普通の病院では治せないことも分かっていました」

新横浜の診療所では丹羽先生のご子息である先生がご主人の診察をしてくれたそうです。そして、足と頭、2種類の塗り薬とSODを処方してもらったそうです。

「以来、主人もSODは欠かさず飲んでいきます。おかげですごく調子が良くなりました。今も数ヶ月に一度、お薬をいただきに新横浜の診療所には通っています。安心をいただきに行っています。SODは朝昼夜それぞれ2包ずつ、二人で1日に12包飲んでいきます」

美恵子さんに至っては、SODとルイボスを愛用するようになって、花粉症もアレルギーも喘息も、一切なく、大正生まれのご両親の介護

も、亡くなる間際まで看病されたとか。ご自身も歯科衛生士のお仕事をしながらですから、ほんとうに元気でないといけないかったですよ。

「私も実は3年前に腰の手術を受けたんですよ。脊柱側湾症で、脊柱を真っ直ぐにする手術で、2度に渡っての手術だったのですが、術後の炎症検査CRPの数値が正常の人と一緒にだったんです。もちろん術前も術後もSODとルイボスは欠かさず飲んでいましたから、その成果ですね。先生もびっくりしていました。70代で若い人よりも術後が良質な患者さん、これまで見たことがないって」

以来腰にコルセットは欠かせないそうですが、元気に仕

事を続けていらっしやる美恵子さん。動ける限りは現役。そのためにもSODとルイボスは必須だそうです。



column

乾癬の治療に処方された塗り薬

今回の乾癬の治療に丹羽先生の診療所で処方された軟膏のひとつに「A-マグニー」というのがあります。

丹羽先生いわく

「マグニー軟膏は石を1300度で粉砕して1ミクロン以下の小さい粒子の粉にしたものを使用しています。そのクリームは皮膚が硬くなってしまった乾癬にすごく有効です。硬くなってしまった尋常

性乾癬にはマグニーしかかさぶたの中に入っていない。皮膚から効果的に毛細血管の中に入り、血流を促します。乾癬だけでなく、シミや色素沈着も流してくれます。SODと併用すれば完璧です」

市販品として、マグニー石に数種類の植物由来エキスとローヤルゼリーエキスを配合したクリームもあります。

ルイボスエキス濃縮粉末

ルイボスにはアレルギー反応そのものを抑えるフラボノイドという物質が多く含まれています。南アフリカ原産のお茶として有名ですが、丹羽療法ではそのルイボス茶葉を土鍋で98℃前後の温度で煎じ、水分を蒸発させ、残った有効成分を丸ごとエキスにしたのがルイボスエキス濃縮粉末です。丹羽先生いわく、

「このルイボスエキス濃縮粉末

は、かゆみや炎症を抑える効果に優れています。丹羽療法では、このルイボスエキス濃縮粉末をアレルギー疾患中心にアトピー、喘息、アレルギー、花粉症などに使用しています。化学薬品を使わない特効薬といえるでしょう。また、これもSODと併用することによってさらに有効となります」

アトピー性皮膚炎、アレルギー、乾癬などの丹羽療法とは

治療の柱は3つ

SODとルイボスエキス濃縮粉末、軟膏、食事療法

今回、愛飲者インタビュー

に登場していただいた中島さんご夫妻も治療を受けた丹羽アトピー療法。SODのことはこの会報の読者の方はよくご存知だと思いますが、意外に知られていないのが丹羽療法のことです。現在全国5カ所、土佐丹羽クリニック、新横浜、大阪、名古屋、福岡にある診療所で丹羽療法の診察が受けられます。

丹羽アトピー療法は丹羽先生が長年の研究により、科学

的に実証し、国際皮膚科学会

でも認められています。他の西洋医学とは根本的に違うのは明らかです。さらに30年以上に渡り、何万人という重症の患者さんを治癒してきた実績もあります。

丹羽先生はアトピー性皮膚炎などの主要原因を突き止めました。それは日本の高度経済成長に比例し、1970年代から増え始めた工場の煤煙、車の排気ガスなどの環境汚染、農薬や食品添加物、過度

の紫外線によって体内に増えすぎた活性酸素が原因だと。最近では中国で盛んに使用されている暖房用の石炭の灰燼が黄砂に乗って日本に飛来するPM2.5などにも発がん性物質が含まれていることが分かっていきます。

体内で必要以上の活性酸素が作られると、人間の身体はSODという酵素で取り除くようにできています。しかし、年齢と共にその酵素は少なくなり、また急速に進んだ食生活の欧米化などで体内の酵素だけでは追いつかなくなるといいます。そこで丹羽博士は活性酸素を化学物質ではなく、自然の生薬で取り除けないかと研究を繰り返した結果、活性酸素を除去する天然

の抗酸化剤、SOD様食品(以下、SOD)が完成しました。原料は大豆、米ぬか、ハト麦など天然の原料を用い、それが体内で有効に活躍するように、遠赤外線焙煎、発酵、油剤化という特殊特許加工を施し、低分子化しています。これを服用することで、アト

ピー悪化の原因である活性酸素、過酸化脂質を除去し、皮膚の保湿機能を回復させます。丹羽療法の基本として欠かせないものです。

丹羽療法には3本の柱があります。そのひとつがSODとルイボスエキス濃縮粉末(以下、ルイボス)の内服。もうひとつが、丹羽博士が開発した軟膏です。

先に紹介したマグネー石を



練り込んだ軟膏を始め、SOD
 エキスの軟膏など10種類あま
 りを症状に合わせて処方して
 います。かゆみだけでなく、色
 素沈着やケロイド状になった
 皮膚を再生できるといえます。
 そして最後のひとつが肉、乳
 製品、酸化した油などを排除
 した食事指導です。丹羽先生
 は生前、アトピー性皮膚炎の
 お子さんの患者さんにて、

で揚げてくれたものだけにし
 なさい」

と言っていました。これは
 外食やスーパーなどの惣菜の
 油は時間が経って酸化してい
 るからいけないのだとか。

食事療法で食べていいもの
 いけないものを図にしたので
 参考にしてください。

丹羽先生は言います。

「私の病院では、内服、軟膏
 による外用剤治療のほか、十
 分な休養と正しい食事なくし
 てはアトピーの改善はない、
 という指導をしています。成
 人アトピーの原因のほとんど
 が寝不足、過労、ストレス、
 不健康な食生活です。これは
 アトピーだけに限らず、がん
 を始めとするあらゆる疾患に
 共通します」

食べてよいもの

白身魚、小魚、貝類（とくにその汁）、カニ、エビ、卵（有
 精卵）、野菜類（ワラビ、タケノコを除く）、果物



少しなら食べてよいもの

マヨネーズ、背の青い魚（サバ、サンマ、イワシなど）



食べてはいけないもの

コーヒー、ココア（紅茶は可）、チョコレート、スナック
 菓子、餅、肉類（一切禁止）、ラーメン、牛乳、マーガリン、
 バター、ピザ、ウナギ、ワラビ、タケノコ



column

背の青い魚(サンマ、サバ、イワシ)について

背の青い魚は、不飽和脂肪酸である DHA を大量に含みます。この DHA は、不飽和脂肪酸の中でもオメガ 3 と呼ばれる脂肪酸で炎症を抑えたりする働きがある元来体に有用なものです。(体で合成できず、食事などで補う必要があるため、必須脂肪酸とも呼ばれます)。しかし、その性質から活性酸素により非常に酸化しやすく、酸化すると過酸化脂質となり、体内で組織破壊などの悪さをします。そのため、当院

では従来“食べてはいけないもの…少しは可”として来ましたが、今後は、酸化していないもの限り(取れたてでお刺身に出来るくらい新鮮なものを)お刺身にしたり、焼いたり、煮たりして食べることはよいということになりました。ただし、干物や、調理した翌日のものは(調理時たとえ新鮮なものであったとしても)、酸化していますので食べないように気をつけて下さい。

油・果物・野菜について

※植物性の油(ごま油、オリーブ油、ナタネ油等)は炒める程度ならよいですが、天ぷらにすると衣がたくさん油を吸うので沢山食べないようにして下さい。同じ天ぷらでも学生食堂、大衆食堂、屋台の赤ちょうちんで食べる天ぷらは植物

性ではなく、動物性のラードが使われている可能性がありますので注意して下さい。要するに天ぷら、炒めご飯は家庭や高級料亭のもの以外はダメ!
※野菜、果物はたくさん食べて下さって結構です。

丹羽療法でアトピー患者さんにお配りしている食事の注意より引用

参考文献

『奇跡のアトピー治療』 20万

人が信頼する丹羽式療法』丹

羽 羽負著 / KKベストセラー

ズ刊

『正しいアトピーの知識』丹

羽 羽負著 / 廣済堂刊

『がん治療究極の選択』 抗が

ん 剤を超えた丹羽療法』丹羽

羽 羽負著 / 講談社刊

『活性酸素で死なないための

食事学』

丹羽 羽負著 / 廣済堂刊

本紙の利用に関するお願い

日本SOD研究会報は、株式会社丹羽メディカル研究所のみ利用許諾をしております。当研究会の許可なく、文章、画像の一部および全てについて、販促物利用、転載、複製、複写、転用、編集、ブログへの引用などの二次利用を固く禁じます。丹羽メディカル研究所が許可した場合はこの限りではありません。

SOD様作用食品体験者の声をお聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒158-0094 東京都世田谷区玉川 1-15-2 B棟 2802

日本SOD研究会 宮城宛

TEL 03-5787-3498

までご一報下さい。

●SOD様作用食品とは●
丹羽博士の開発

SODとは、スーパーオキシド・デイスムターゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康の力ぎを握る物質として「活性酸素」と「SOD」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや生活習慣病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くSODという酵素が存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のSODだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにSODという酵素は分子量が大きいために内服しても胃で破壊され、腸から吸収されません。それを、内服できるように研究されたのが丹羽SOD様作用食品です。

開発した丹羽朝負（耕三）医学博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをキッカケにSODの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。開発には実に



二十年もの歳月が必要でした。「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った、自然の摂理」は、私に大自然のメカニズムの精緻さと人間の自己治癒力の偉大さを教えてくれました。病気は自分が治すもの、私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています。

先生は生前、土佐丹羽クリニックの院長として日々、医療の現場で、がん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたられていました。また、SODなどを始めとする論文は高い評価を得て、日本のみならず海外の学会で講演したり、大学病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送られました。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです。

SOD研究会からのお知らせ

いつもSOD研究会報をご覧いただきありがとうございます。

最近、特に当研究会へお問い合わせいただくことが多い内容についてお知らせ致します。「丹羽耕三博士のSOD様食品は金の笠のシールが貼られていれば、どこも同じものなのではないでしょうか？」というような、ご質問をよくいただきます。

その回答としましては、金の笠（管理番号付）シールは丹羽免疫研究所で分析・検定し、エーパック・ニワ加工工場（土佐清水市）で開発当初から、厳しい品質管理のもとに伝統的な製法で造られる製品だけに貼付される信頼の証（マーク）でした。しかし、ここ数年前より丹羽先生の考えで別の工場で製造されたSOD様食品にも金の笠のシールが貼られ、販売されているものもあります。土佐清水市の工場で製造されたか、そうでないかを見比べる一つの目安が、まず金の笠シールの特徴にあります。

エーパック・ニワ加工工場（土佐清水市）で製造されている製品シールの特徴



原寸大 横 30mm、縦 25mm

- 管理番号は6桁
※土佐清水で製造された証明の通し番号となっています。
- シール左部分に絵や記号が記載されている
※左部分の表示は製品管理の為、不定期に変わります。
- 他の工場で製造された製品と比べ、原末の味や色、粒の大きさが違う場合などがある

◆現在、丹羽療法の診察は皮膚科のみとなります。ご希望の方はご予約いたします。（※自由診療）
※診療日等に関しましては、状況により変更、休診となることもあります。予めご了承ください。

丹羽メディカル研究所 ☎ 0120(731)175